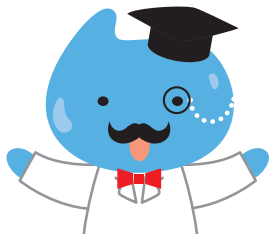




みんなの水

水のことならおまかせ
たかのみず博士



旧御殿水源地の改修が 全て完了しました

高松市鶴市町にある「旧御殿水源地」は、大正10(1921)年9月1日に給水を開始した、高松市の近代水道創設のために建設された浄水場です。敷地の内外には、大正時代に建設された6つの建造物が、ほぼ創建当時の姿のまま現存し、その歴史的・文化財的価値から、国の「登録有形文化財」に登録されています。

これらの建造物は創建後100年以上が経過し、老朽箇所の修繕と耐震性向上のため、平成29(2017)年3月から唧筒(=ポンプ)場と事務所を、令和3(2021)年6月から倉庫の工事を行い、次の100年を見据えた施設として生まれ変わりました。



- ▲ 唧筒場 「高松市水道資料館」として活用しています。
- ▼ 事務所 玄関ポーチにある半円形の破風が特徴です。



旧御殿水源地(高松市水道資料館)

高松市鶴市町1360 [駐車場]21台
[開館時間]10時~17時 [入館料]無料

詳しくは▶



水の研究をしている
まつこ助手

旧御殿水源地倉庫の工事ポイント (工期:令和3年6月9日~令和4年6月30日)

ポイント① 土壁の復原

わらすさが目立つ意匠の土壁は、解体時に剥ぎ取りした創建当時の壁土に、新たな土とわらすさを練り混ぜて寝かせたものを加えて使用することで、可能な限り復原しました。



創建当時のものと
思われる鬼瓦



復原



ポイント② 粘土瓦ふき替え

工事前の屋根はセメント瓦でしたが、創建当時の写真によると、唧筒場・事務所と同様の粘土瓦だった可能性が高いことから、粘土瓦でふき替えを行いました。鬼瓦についても、資料として保存していた鬼瓦と、創建当時の写真を参考に復原しました。

ポイント③ 伝統工法による古材修繕

柱や土台、梁などの主要構造部の多くに蟻害が確認されましたが、一つ一つの部材を丁寧に取り外し、修繕や取り替えを行うことで、創建当時の部材を可能な限り再利用しました。

